

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 5 日現在

機関番号：12102
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2009～2012
 課題番号：211330209
 研究課題名（和文） 自閉症児に対する初期社会性発達アセスメントと支援プログラムの開発に関する研究
 研究課題名（英文） Development of assessment of early social development and tasks of early social development for children with autism
 研究代表者
 長崎 勤 (NAGASAKI TSUTOMU)
 筑波大学・人間系・教授
 研究者番号：80172518

研究成果の概要（和文）：自閉症児の「初期社会性の発達アセスメント（Assessment of Early Social development: AES）」と、支援・教育のための「初期社会性発達支援課題（Tasks of Early Social development: TES）」を開発し、図書として刊行した。幼児期・児童期の自閉症児を対象に、初期社会性の発達アセスメントに基づいて社会性の指導課題を選択し、家庭や教室など子どもが生活する場で支援を行い、社会性の発達支援の可能性が示された。

研究成果の概要（英文）： Assessment of Early Social development(AES) and Tasks of Early Social development(TES) for children with autism were developed. The social development of kindergarten and elementary school children with autism were assessed by AES and they were treated by TES which were based on their home activities and classroom curriculums. The teachability of socialization were showed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3200,000	960,000	4160,000
2010年度	1500,000	450,000	1950,000
2011年度	1300,000	390,000	1690,000
2012年度	1000,000	300,000	1300,000
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別支援学校

1. 研究開始当初の背景

自閉症児の社会的認知障害が明らかとなり、また発達研究によって初期社会性の発達過程が理論的に明らかにされてきたため、これらのデータと理論を背景にした、初期の

社会性発達についての科学的なアセスメントと支援方法の開発の基盤ができてきた状況である。しかし、わが国では、自閉症児の初期社会性について包括的・体系的にアセスメントする方法や発達支援プログラムはま

だけでなく、その開発が急がれている。

2. 研究の目的

社会性の発達が0歳～2・3歳前後までの自閉症児を対象にした「自閉症児のための初期社会性発達支援プログラム・パッケージ (Early Social Program for Autism : ESPA)」を開発する。

3. 研究の方法

評価部門である「初期社会性の発達アセスメント (Assessment of Early Social development : AES)」を開発し、支援・教育部門である「初期社会性発達支援課題 (Tasks of Early Social development : TES)」を構成し、幼児期・児童期の自閉症児に対し、初期社会性の発達アセスメントに基づいて社会性の指導課題を選択し、家庭や教室など子どもが生活する場で支援する。

4. 研究成果

<研究 I - 1 > 「初期社会性の発達アセスメント (AES)」質問紙の作成

(a) 「初期社会性の発達アセスメント (AES)」の作成 : Tomasello ら (2005) の「共同行為の発達段階理論」I、II、III レベルについて、以下の4領域35項目によって作成した。①模倣・役割交代②共同注意③情動共有④コミュニケーション。

(b) アセスメントの手続きの設定 : (i) 各レベル毎に、4領域全ての達成数を数え、「レベル達成項目数欄」に記入する。(ii) 全項目数に対する達成項目数の比率である「レベルの達成率」を算出する。(iii) 各レベルの小項目の達成率が80%以上のレベルを、「現在の発達レベル」とする。(iv) 「発達レベル」の次のレベルを「発達支援レベル」とする。

<研究 I - 2 > 「初期社会性の発達アセスメント (AES)」の妥当性・信頼性の検討

【目的】生後6ヶ月から24ヶ月の健常乳幼児、各月齢10名に月に1度、縦断的観察を行った。(A) 質問紙の記入 ; 原則的に家庭訪問を行い、質問紙の各項目について、養育者に尋ねチェックした。通過率の分析から、項目の妥当性を検討した。(B) 行動観察 ; 30分間の日常生活場面、20分間の観察者が用意した15種類の玩具を用いた養育者との遊びをビデオに録音し、その後、①模倣・役割交代、②共同注意、③情動共有、④コミュニケーションの計35項目について、行動コーディングシステムによって分析した。その結果、役割反転模倣の出現が、1歳半ばから確認された。

<研究 I - 3 > 「初期社会性の発達アセスメント (AES)」の自閉症児への適用

「初期社会性の発達アセスメント (AES)」を特別支援学校の幼稚部・小学部の50名の自

閉症児に適用し、その妥当性を検討するとともに、プロフィール特性を分析した結果、模倣と共同注意、情動共有などの間に有意な相関が認められた。また、役割の模倣と能動的共同注意、能動的共同注意と情動共有などの間にも有意な相関が見られた (吉井・中村・若井・仲野・長崎, 2011)。

<研究 II - 1 > 「初期社会性発達支援課題 (TES)」の構成

「初期社会性の発達アセスメント (AES)」のレベルI、レベルII、レベルIIIに対応する「初期社会性発達支援課題 (TES)」を作成した。各ステップは10～15個の課題からなり、計44課題であり、その妥当性を検討した。

<研究 II - 2 > 「初期社会性発達支援課題 (TES)」レベルI、IIの自閉症児への実験的支援

「初期社会性の発達アセスメント (AES)」に基づく特別支援学校幼稚部・小学部自閉症児に「初期社会性発達支援課題 (TES)」を適用した支援を15回～20回行い、その妥当性を検討した。

①若井・中村・吉井・長崎 (2011) では特別支援学校小学部自閉症児に身体ゲーム活動 (「忍者教室」スクリプト) の指導過程における視線・情動を分析した結果、情動共有から視線共有の獲得という過程が認められた。

②吉井・若井・長崎 (2011) では、特別支援学校幼稚部自閉症児に、電車あそびゲームにおける指導者と自閉症児との協同活動の指導過程を分析した結果、初めは指導者が幼児の動きに合わせることから徐々に幼児が指導者の動きに合わせるようになる過程が見いだされた。

③竹内・長崎 (2012) では、レベルが特定できない特別支援学校小学部自閉症児に、AESとTESを適応してアセスメントと支援を行った結果、AESの達成率が40%台から70%近くへと増加して、一定の効果が認められた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

(1) 仲野真史・長崎 勤 (2012) 幼児期における語りの構造の発達、発達心理学研究、第23巻1号、66-74。(査読あり)

(2) 長崎 勤 (2011) 初期社会性 = 「人と何かを共にし、またそのことを楽しむこと」の発達と支援 - Tomasello による社会的認知発達理論と SCERTS モデルによる情動調整の観点から - , 家庭教育研究所紀要 第33号、23-32.

(3) 宮井清香・安永啓司・高野裕美・広野みゆき・伊藤良子・藤野博 (2011) 幼児期の人間関係の発達を促す遊びに関する実践

- 研究：人形を用いた遊びに着目して、東京学芸大学紀要（総合教育科学系）62(2), 297-304.
- (4)板倉達哉・柄田 毅・長崎 勤(2010)他者との共同行為による幼児のタスク習熟度の発達, 障害科学研究, 34, 129-138. (査読あり)
- (5)仲野真史・長崎 勤(2010)ナラティブの発達と支援, 特殊教育学研究, 47, 3, 183-192. (査読あり)
- (6)吉田仰希・長崎 勤(2009)ASD 児の社会・コミュニケーション及び情動調整のアセスメント方法に関する検討—SCERTS モデルの SAP-0 Form を用いて—, 障害科学研究, 33, 127-134. (査読あり)
- (7)Shiho T., Okuhata, Okazaki,S., and Maekawa,H.(2009)EEG coherence pattern during simultaneous and successive processing tasks. *International Journal of Psychophysiology*,72 (2) ,89-96.
- (8)森脇愛子・藤野博(2009)アスペルガー障害児に対するソーシャル/コミュニケーション支援—生態学的視点に基づくクラスルームベースのアプローチ, 臨床発達心理実践研究, 4, 59-66. (査読あり)
- [学会発表] (計 15 件)
- (1)上村 誠也・渡辺 春奈・竹内 嘉恵・久津間祐貴・権梅蘭・長崎 勤 SCERTS モデルによる学齢期自閉症児の発達支援(1)—役割交替、情動表出・共有支援のための「ボール遊び」課題を通して—日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集, 131. つくば国際会議場(茨城県)(2012 年 9 月 29 日)
- (2)権 梅蘭・竹内 嘉恵・渡辺 春奈・上村 誠也・久津間 祐貴・長崎 勤 SCERTS モデルによる学齢期自閉症児の発達支援(2)—交互注視の支援のための「工作課題」を通して—日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集, 132. つくば国際会議場(茨城県)(2012 年 9 月 29 日)
- (3)板倉達哉・長崎勤 積み木つみ協同活動場面における幼児間の会話特性—「気になる」幼児の会話支援への基礎的研究—日本特殊教育学会第 50 回大会発表論文集, 130. つくば国際会議場(茨城県)(2012 年 9 月 28 日)
- (4)吉井勘人・長崎 勤「初期社会性発達アセスメント」を用いた ASD 児における模倣、共同注意、情動共有、コミュニケーションの関連について 日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集, 375. 名古屋大学(愛知県)(2012 年 3 月 10 日)
- (5)Jung, M. and Nagasaki, T.Teaching Reciprocal Imitation skills to children with autism spectrum disorder using a Japanese traditional play. X *International meeting for autism research (IMFAR) San Diego, US. (May 12,2011)*
- (6)竹内嘉恵・長崎 勤 自閉症児に対する東京都「社会性の学習」における授業開発(3)—初期社会性発達アセスメントに基づく授業づくり—日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集, 660. 弘前大学(青森県)(2011 年 9 月 25 日)
- (7)若井広太郎・中村 晋・吉井勘人・長崎 勤 自閉症児への初期社会性発達支援プログラム(E-SPA)の適用Ⅲ(1)—忍者教室スクリプトの成立過程における視線・情動の分析—日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集, 271. 弘前大学(青森県)(2011 年 9 月 23 日)
- (8)吉井勘人・若井広太郎・長崎 勤 自閉症児への初期社会性発達支援プログラム(E-SPA)の適用Ⅲ(2)—「電車遊び」ルーティンを用いた幼児同士の協同活動の成立過程について—日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集 156. 弘前大学(青森県)(2011 年 9 月 23 日)
- (9)吉井勘人・中村 晋・若井広太郎・仲野真史・長崎 勤 初期社会性発達アセスメント」を用いた ASD 児における初期の社会性の特徴に関する検討 日本発達心理学会第 22 回大会発表論文集, 156. 東京学芸大学(東京都)(2011 年 3 月 25 日)
- (10)中村 晋・吉井勘人・若井広太郎・長崎 勤 自閉症児への初期社会性発達支援プログラム(E-SPA)の適用Ⅱ(1)-役割交代あそびの成立過程における視線と情動の分析—日本特殊教育学会第 48 回大会論文集, 258. 長崎大学(長崎県)(2010 年 9 月 19 日)
- (11)早坂芳章・中村典男・島添 聡・長崎 勤 自閉症児に対する東京都「社会性の学習」における授業開発(2)—「はらぺこあおむし」を題材にした他児へのかかわりと役割交代の理解の支援—日本特殊教育学会第 48 回大会論文集, 472. 長崎大学(長崎県)(2010 年 9 月 18 日)
- (12)Nagasaki, T & Nagasaki Y.(.)Characteristics of conversations of junior high school children with high function autism and Asperger syndrome. XIV European Conference on Developmental Psychology August 18-22. Vilnius, Lithuania (August.20,2009)
- (13)皆川睦子・森澤亮介・吉田仰希・佐藤義竹・石山めぐみ・仲野みこ・小林麻里・長崎 勤 自閉症児への社会的認知発達支援プログラム(6)—協同活動「花摘みリレー」における役割理解の支援—日本特殊教育学会第 48 回大会発表論文集,132. 長崎大学(長崎県). (2009 年 9 月 20 日)
- (14)佐藤義竹・皆川睦子・吉田仰希・石山め

ぐみ・森澤亮介・仲野みこ・小林麻里・長崎勤 自閉症児への社会的認知発達支援プログラム(8)―協同活動「イス取りゲーム」から「フルーツバスケット」への「段階的手続き移行」を伴った指導方法―日本特殊教育学会日本特殊教育学会第48回大会発表論文集,134. 長崎大学(長崎県) (2009年9月20日)

[図書] (計14件)

- (1)長崎 勤(2013) 社会性・人間関係の発達と支援とは何か? 長崎 勤・森 正樹・高橋千枝(編著)「シリーズ:発達支援のユニバーサルデザイン」第1巻 社会性発達支援のユニバーサルデザイン、序章 289p(pp.1-7). 金子書房.
- (2)長崎 勤(2013) 共同行為の始まり:初期社会的認知発達と課題 長崎 勤・森 正樹・高橋千枝(編著)「シリーズ:発達支援のユニバーサルデザイン」第1巻 社会性発達支援のユニバーサルデザイン、第1章 289p (pp13-20). 金子書房.
- (3)バリー・プリザント、エミー・ウエザービー・エミリー・ルービン、エミー・C・ローレント、パトリック・J・ライデル/長崎 勤・吉田仰希・仲野真史 (翻訳)(2012) SCERTS モデル:自閉症スペクトラム障害の子どもたちのための包括的教育アプローチ 第2巻 プログラムの計画と介入 402p (pp.1-20 ,pp.21-54).日本文化科学社.
- (4)長崎 勤(2012) 発達支援のスペクトラムと包括的アセスメント 日本発達心理学会(編)無藤 隆・長崎 勤 (共編) 発達心理学ハンドブック・第6巻 発達と支援、第2章 358p(pp22-31). 新曜社.
- (5)長崎 勤・藤野博(編著)(2011)学童期の支援―特別支援教育をふまえて― 臨床発達心理学・理論と実践④ 293p (pp.2-15). ミネルヴァ書房.
- (6)今野正良・長崎 勤・土橋圭子 (編集) (2011)視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育 274p (pp.247-250).金芳堂.
- (7)藤田和弘・大六一志・山中 克夫・前川 久男 (編集) (2011)日本版 WAIS - 3 の解釈事例と臨床研究 278p(pp.78-89)日本文化科学社.
- (8)宮本 信也 (編集) (2011)発達障害医学の進歩〈23〉発達障害における行動・精神面の問題―二次障害から併存精神障害まで 110p 日本発達障害福祉連盟, 日本発達障害学会診断と治療社.
- (9)バリー・プリザント、エミー・ウエザービー・エミリー・ルービン、エミー・C・ローレント、パトリック・J・ライデル 長崎 勤・吉田仰希・仲野真史 (翻訳)(2010)SCERTS モデル:自閉症スペク

- トラム障害の子どもたちのための包括的教育アプローチ 第1巻アセスメント 334p (pp.1-20,pp.21-54)日本文化科学社.
- (10)長崎 勤(2010) 生活世界の中でのことばの力の獲得と臨床 子どもへの発達支援のエッセンス 秦野悦子編著 生きたことばの力とコミュニケーション 第6章, 299p(pp113-132).金子書房.
 - (11)宮本 信也・小野里 美帆編著(2010) 保育にいかず精神保健(シードブック) 197p 建帛社.
 - (12)宮本 信也 (監修) 他(2009) 特別支援教育の基礎.383p.東京書籍.
 - (13)長崎 勤・中村 晋・吉井勘人・若井広太郎 (編著) (2009)自閉症児のための社会性発達支援プログラム―意図と情動の共有による共同行為―228p (pp.1-22) 日本文化科学社.
 - (14)宮本信也(2009)アスペルガー症候群 高機能自閉症の本―じょうずなつきあい方がわかる(セレクト BOOKS 育ちあう子育ての本)128pp. 主婦の友社.

6. 研究組織

(1)研究代表者

長崎 勤 (Nagasaki Tsutomu)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号: 80172518

(2)研究分担者

宮本 信也 (Miyamoto Sinya)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号: 60251005
前川 久男(Maekawa Hisao)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号: 00115148
藤野 博(Fujino Hiroshi)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号: 00248270